

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成 23 年度 プログラム実施状況報告書

|         |                     |                |       |
|---------|---------------------|----------------|-------|
| 採 択 年 度 | 平成 23 年度            |                |       |
| プログラム名  | フォトンサイエンス・リーディング大学院 | 申請大学長名         | 濱田 純一 |
| 申請大学名   | 東京大学                | プログラム責任者名      | 山形 俊男 |
| 申 請 類 型 | E <複合領域型（横断的テーマ）>   | プログラムコーディネーター名 | 五神 真  |

<プログラム進捗状況概要>

## 1. プログラムの目的・大学の改革構想

光科学の持つ「基盤性・革新性・横断性」を新しい大学院教育の軸に据え、わが国の博士課程教育システムの改革モデルとなる博士前期後期課程一貫プログラムを設置する。優秀な若者を世界から集め、広い分野にわたる確固たる基礎科学力を身につけた上で、知の活用の為の実践的な講義演習を行う。これにより、学問分野、基礎・応用の区別なく広い視野を持って、人類の課題解決に立ち向かうリーダー人材を育成する。狭い意味でのアカデミアに停留せず、産業界・政策立案などの幅広い分野で世界的リーダーとして活躍するキャリアパスを構築する。特に、経済的な事情や将来への不安から、博士進学を断念している優秀な修士学生および優秀な外国人の確保のため、前期課程から十分な支援を行う。

## 2. プログラムの進捗状況

本事業の初年度として、全期間にわたる円滑な運用を可能にするための礎を構築することを目指し、以下の項目を実施した。

- 1) 博士前期課程、1年、2年に在学している大学院生から、本コースに入学する学生の選抜を行った。構想段階から検討を重ねてきたものを具体化し、制度を整備した上で、選抜された学生に対する支援を開始した。関連専攻に所属する教員全員に対し、本事業の趣旨を説明し、大学院教育改革を効果的に進めるため、事業に対する理解を広げることに留意した。
- 2) 次年度以降、本格化するコースワークの枠組みを設計し、選抜した学生に対して、修了に至るまでのコースの履修モデルを示した。新規に開講する講義・実習及び演習について準備を開始した。
- 3) 本コース運営に必要な各委員会と運営支援組織の整備を実施した。そして、委員会において、本事業の運営に必要な規則・内規の整備を進めた。
- 4) 産学官のメンバーからなる外部評価委員会を組織した。
- 5) 本事業の実施にあたり必要となるスペースの確保、設備の充実を行った。
- 6) 本事業の活動を公開するための広報活動を開始し、Webページの整備などを実施した。